

光明禪寺

第493号

令和五年十月

現在に活きる
仏の教え

いては困る人、いてもいなくてもいい人、
いてもらうねないと困る人、君はどれだ？

満足の秘訣は、生かされている、もら
い物と理解することだよ。

才能のな、やつは努力するしかない
んだ。

あなたの前にあるのは壁土じゃなく
て扉だよ。

涙の数だけ、きつといつか花が咲
く日がくる。

電話 221-4127 (2回線)
〒141-0901 7981-9123
FAX 241-3519

(県・市文化財指定 安田道所)
〒141-0901 二指宿市十町南迫田二七六八

十月の行事

一 暁天坐禅会 次一日曜(一日) 朝六時
初三日曜(十五日)

一 達磨大師御忌 五日 二時

一 地藏尊・水子供養 二十四日 二時

お礼

お彼岸の折には、皆様方の御協力により、お彼岸の御供養を終らせて頂きました。有難うございました。

◇御援助 簿◇

〇〇〇〇様よりお花代を頂きました。

計ニ名様より

有難うございました。

ホームページを作りますて、かう、まもなく一年になると思っています。見られる方は、源忠山 光明禅寺で 検索して見て下さいませ。

訃報

湯の浜地区の辻 純一郎様が。

病氣療養中でしたが、九月二十二日

八十三歳を以て永眠致しました。ここに故人の御冥福を切にお祈りします。

。教えられたり 教えたり

それが 善き友・善知識。

人生は人と人との出会いです。また

くの知らない者同士が、ふとしたキツ

カケから一生忘れられないような友

たちになるのはよくあることです。

そうかと思えばちよつとしたことで

傷つけ合って別れてしまうこともあ

ります。でも、一人ぼっちでは生き

られない私たちは、いつも心のどこ

かで本当に慰め合い、励まし合え

る友たちを求めているものです。

どんなに人間嫌いの人だって、何かを

友にして、生きているものです。

共に人生を、分ちあつてくれるもの、それが友^{とも}という言葉の始まりではないでしょうか。しかし、友も友によりけりです。昔から「朱に交われれば赤くなる」という言葉があるように、善くも悪くも影^{かげ}郷音^{きょうおん}し合うのが友です。お互い信頼し成長し合うような友^{とも}たちを^{選んで}くださう。仏教では、自分が悟^ごりを開く縁を作ってくれる人のことを「善知識」と呼びます。友は、お互い善知識でなければなりません。「朋^{とも}有りて遠方より来る。亦^{また}愧^はしからずや」と論語^{ろんご}というような友^{とも}たちを、私たちは持ちたいものです。

慈^い悲^ひ 慈^いは 励^ほまし^の心
悲^ひ心^{しん}は いたわりの愛^{あい}。

私たちのまわりにはいろいろな愛があり、異性を愛する愛、子を思ふ愛、親を慕う愛、友情で結ばれる愛、教えあげれば喜ばないほど、この世の中には、愛がさまざまな姿をもって存在しています。人は、愛ゆえに喜び、悲しみ、助け合い、憎み合います。考えてみれば、愛ほど魅力的なものはないのに、また、これほど始末のわるいものはありません。慈悲とは、そんな人間の愛を越えた仏さまの愛をあらわす言葉です。私たちの愛が、特定のの人にそそがれるのに対し、仏さまの愛は無限の広がりをもってあります。私たちが愛の裏に憎しみを隠しているのに対し、仏さまは絶対の愛をお持ちです。私たち

生きとし生けるものすべてを仏さまと同じ心の世界へ入らしめようと、ある時は励まし、ある時はいたわり、ややもすればヤケツバ午になりがちな私たちを見守り導いてくださっています。そんな仏さまの愛は、私たちの心の奥底にもあるのです。ほんとうの愛を知った時、私たちは本当の愛をつかむことができるでしょう。

・分がちあう人生。
一人で歩めば心細い道も、連れがあれは楽しくなるもの。人生も同じで、夫婦はお互いを「連れ合い」と呼び、共に生きることを「連れ添う」といいます。一人では耐えがたかったことも、分がち合えば、苦は半減、楽は倍増。共に歩んだ人生を

「お前がいたから」「あなたのお陰で」と語り合えるのが夫婦というものでしょう。英語で、夫が妻のことをベターハーフ（よりよい半分）というのもそんな気持ちのあらわれなのかもしれません。でも最近では、分がちあうという意味が変わってきてきました。たとえ夫婦でも、その関係は五分と五分、確利も責任も平等に分けあうという考え方がそれです。それでは二人は、よりよい半分どころか、真二つに割れた仲。楽しい時はとにかく、苦しい時は、ハイそれまでよという夫婦になりかねません。たとえ体は別々でも心を一つに合わせるのが、分がちあう本来の意味ではないでしょうか。ところで、もし今自分ひとりぼっちだと思っっているあなた、たとえ一人ぼっちとしても心配しないでください。